

同志社大学航空部に期待する!!

大阪大学航空部 OB 清水 秀 祐



大阪大学医学部卒(昭和45)

云わずと知れた、航空身体検査医の「清水センセイ」。学生、社会人を問わず多くのグライダーマンがお世話になっている。現役時代は主将として大阪大学を引張り、卒業後も昭和47年から6年間、母校の監督として阪大の強化に貢献された。

最近、関西エアロスポートクラブの教官として活躍の傍ら、毎年のようにオーストラリア通いを続け、ワイケリーの空を知り尽くしておられる。

銀章及びダイヤモンド目的地(300km)所持。

同志社大学航空部創立60周年おめでとうございます。関西学連のリード役としての長年の御活躍に敬意を表します。

同志社大学では、関西の雄として戦前から君臨され、その実力を毎年維持されていることには、学校の努力もさることながら、OB 諸氏が一体となって指導、協力された賜物であると感心しています。

私の知る範囲では、牧野(伊)、牧野(鐵)、北尾、田口各教官が、同志社のOBとして又学連の教官として関西グライダー界をここまで立派に育ててこられました。関西では、学校単位ではなく関西支部全体で大きく発展してきたのは、同志社大

学」の貢献のお蔭とっております。

私の同志社航空部に対するイメージは、30年前も今もほとんど変わりません。クラブ全体に活気があり雰囲気がいい。合宿が多く、その結果うまいパイロットが多い。素晴らしい先輩や教官が沢山おられ、しかも機材に恵まれている。学生のまとまりがよく、楽しそうである、etc. です。

少し気になる点は、かつて昭和42年頃でしたか、全国に先駆け Ka 6 E を購入し、岡山空港(現岡山南飛行場)で三角距離飛行を同立戦に初めて取り入れ、金甲山で斜面上昇風の開拓をされた時のパイオニア精神がなくなって少し保守的になったような気がする事です。我々にも言えることです。現状に満足すると新しいことにチャレンジすることが億劫になってどうしても新しいことにトライしなくなります。それを打ち破ってくれるのは、若さではないでしょうか。そういう意味で教官や指導者は、現役学生と若いOBの意見を取り入れてもっともっと試行錯誤してほしいのです。滑空場の制約の多い関西では、今のままの練習方法では関東勢に太刀打ちすることは出来ません。飛行時間が絶対的に不足していますので、ソアリングの練習にしろ、クロスカントリーの練習にしろもっと飛行時間を増やすことに主眼をおいて、考える必要が有ると思います。私は、学生及び指導者の層が一番厚く関西に一番影響力の強い同志社航空部がイニシアティブを取って、再度申し上げますが、今までの方法にとってかわるような効率的かつ安全な練習方法を開発することにトライして欲しいと期待しています。

同志社大学航空部が、これからますますの御発展をとげられますことを祈念してやみません。